

公益財団法人 8020 推進財団

平成30年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：

医科・歯科合同研修会

がん患者における口腔機能及び口腔衛生管理への介入における効果について

2. 申請者名：

一般社団法人 大阪府歯科医師会

3. 実施組織：

一般社団法人 大阪府歯科医師会

4. 事業の概要：

がん患者の口腔内の評価及び口腔内清掃等を行うことによる効果を検証する。

- ①「手術」を行う場合：術後起こりうる口腔内常在菌の関連する局所合併症や肺炎の発症頻度
 - ②「放射線療法・化学療法」を行う場合：治療に伴う口腔内粘膜炎等の副作用の可能な限りの回避
- がん治療の質的向上を目指す観点から歯科の介入による①②の効果的な低減方法を考察する。また今後、歯科のない病院でのがん連携について効果的な方策を検討し、実践することを目的とする。

5. 事業の内容：

- ・がん医療に精通した医師を招き、がん患者における医科歯科連携に関わる基調講演を開催する。
- ・医療現場の従事者（医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士がメンバー）の立場から実際に取り組みされている連携について意見交換し、医科歯科連携の課題を抽出する目的でシンポジウムを開催する。

研修会の対象は医療従事者、歯科医療従事者以外に介護関係者にも窓口を開く。医療従事者が各自の立場から連携体制を考え、今後の医科歯科連携について知識を深める機会となるよう周知、広報を行う。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

平成31年3月31日（日）に本研修会を実施した。医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、保健所・保健福祉センター職員、その他行政職員を合わせた合計311人の参加者があった。

また、大阪府内だけでなく、兵庫県からの参加者も見られた。

第一部の基調講演は二つ。まず「これからのがん医療」をテーマに、がん医療の変遷について示され、最近の知見や治療法について紹介された。口腔の管理はがん治療を円滑に行う観点及び患者のQOLの両方に必要であり、院内外の歯科の専門家との連携が必須となることについて言及された。次に「平成30年診療報酬改定にみる医科歯科連携の推進」をテーマに、口腔環境に影響される全身への危険率等のデータを示すことで専門的口腔ケア・口腔機能管理の必要性について述べられた。

第二部のシンポジウムでは5人のシンポジストより、所属の病院のがん医療への取り組み状況や医科歯科連携のシステム等について紹介された。

歯科のない病院については医科側に口腔管理に対して如何に意識を持ってもらい、地域の歯科診療所と連携してもらうかが重要である。診療情報提供の際に必要なやりとり、顔の見える関係を多職種間で築くこと、情報が共有・理解できる記録や媒体を作成することが重要であるとの見解で一致した。

